

．おわりに

調査概要・位置づけで述べたように、本年度の調査研究は実態を正しく把握するという目的の下で、支援を受ける側(被支援者本人およびその家族)と支援を提供する側(支援団体)を調査した。

具体的には、第 章で先行研究を概観した後、第 章で被支援者本人およびその家族の意識を明らかにした。また、第 ・ ・ 章では支援団体に対して調査を行い、支援の実態を明らかにした。具体的には、郵送アンケート調査で定量的に支援の型や支援ステップや支援団体の組織・運営を概観した後、現地ヒアリング調査を行い、支援メニューに沿って支援の実態を明らかにしたり、組織・経営の面で支援団体の実態について具体的に話を伺ったりした。

支援を受ける側に関しては、一般家庭と困難家庭を比較したり、困難家庭の意識を様々な角度から調査したりできた。本年度は被支援者の家族に対して調査を行っており、家族から見た視点で様々な意識等を把握することができた。

支援を提供する側に関しては、支援に関する考え方や、支援の実態、支援団体の組織・運営の実態などを調査した。支援のゴールや家族に対する考え方といった観点から支援団体の類型化を行った。支援の実態としては、「(1)支援の入口・相談、(2)訪問支援、(3)家族支援、(4)居場所の提供、(5)通所による支援、(6)宿泊による支援、(7)就労支援、(8)継続支援・定着支援」という支援毎に、ヒアリング結果を踏まえて、各団体が展開している支援の内容を整理した。

APPENDIX

1. 企画分析会議の開催概要とメンバー

全5回の企画分析会議を、以下のように開催した。

図表 98 企画分析会議の委員

(座長)	明星大学大学院 人文学研究科長	高塚 雄介
(委員)	NPO 法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス 代表理事	谷口 仁史
(委員)	NPO 法人 侍学園スクオーラ今人 理事長	長岡 秀貴
(委員)	財団法人 札幌市青少年女性活動協会 主査	松田 考

図表 99 企画分析会議の開催日時・アジェンダ

第1回	日時： 2012年9月12日（水） 16:00～19:00 場所： 内閣府 中央合同庁舎第4号館 4階420会議室 議題： ・委員のご紹介 ・自立支援の難しさ・問題点・課題に関する意見交換 ・本調査研究の今後の進め方（NRIが想定する調査方法・段取り） ・先行研究として取り上げる研究についての意見交換 ・エスノグラフィ調査の調査対象に関する意見交換
第2回	日時： 2012年10月15日（月） 16:00～19:00 場所： 株式会社 野村総合研究所 丸の内総合センター 9階会議室11 議題： ・先行研究整理に基づく仮説討議 ・エスノグラフィ調査の進捗報告と意見交換 ・現地ヒアリング調査の進捗報告と意見交換 ・ネットアンケート調査の調査設計と意見収集 ・郵送アンケート調査の調査設計と意見収集
第3回	日時： 2012年12月17日（月） 12:30～15:30 場所： 株式会社 野村総合研究所 丸の内総合センター 8階会議室83 議題： ・ネットアンケート結果速報 ・現地ヒアリングに関する討議 ・郵送調査結果報告と訪問先討議 ・現地ヒアリングへの同行について

第4回	日時： 2013年2月8日（金） 9：00～12：00 場所： 株式会社 野村総合研究所 丸の内総合センター 8階会議室83 議題： ・ネットアンケート結果報告 ・現地ヒアリングの進捗状況 ・報告書の構成に関する意見交換
第5回	日時： 2013年3月19日（火） 9：30～12：00 場所： 内閣府 中央合同庁舎第4号館 4階420会議室 議題： ・報告書の全体構成 ・現地ヒアリング結果のまとめ（1）まとめ方 ・現地ヒアリング結果のまとめ（2）就労支援パート ・現地ヒアリング結果のまとめ（3）上記以外のパート ・報告書の確定に向けた手順

2. 郵送アンケート調査票

内閣府「困難を有する子ども・若者及び家族への支援に関する調査研究」 に関する支援機関・団体へのアンケート調査

【貴団体・機関の概要】

(特にことわりのない限り、平成 24 年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください)

問 1

1) 貴団体・機関の職員数は何名ですか。それぞれご記入ください。

正規職員：_____名， 非正規職員：_____名， 登録ボランティア：_____名

その他（具体的に：_____）_____名

2) 1) でお答えいただいた職員のうち、有資格者は何名ですか。 : _____名

また、正規職員の方の平均的な勤続年数はおおよそ何年ですか。 : _____年

※ここで言う有資格者とは、心理系資格（臨床心理士、産業カウンセラー等）、福祉系資格（精神保健福祉士、社会福祉士等）、医療系資格（保健士、作業療法士等）、就労系資格（キャリア・コンサルタント等）、を指します。

問 2 貴団体・機関が所有する設備として当てはまる選択肢の番号に○をお付けください。

(○はいくつでも)

1. 宿泊施設
2. 居場所・フリースペース
3. 学習支援、就労支援を行っている教室・自習室や作業場等
4. スポーツ等の活動のための体育館・グラウンド等のスペース
5. 個別相談スペース
6. レストラン、カフェ等の飲食の提供を目的としたスペース
7. 農業体験や自然に触れる経験の提供を目的とした農地・山林や公園
8. 病院等の医療施設
9. その他 ()
10. 施設・設備は保有していない

問 3 貴団体・機関の過去 1 年間（前事業年度）の総収入額として当てはまる選択肢の番号に 1 つだけ ○をお付けください。

1. 100 万円未満
2. 100 万～500 万円未満
3. 500 万～1,000 万円未満
4. 1,000 万～3,000 万円未満
5. 3,000 万～5,000 万円未満
6. 5,000 万～1 億円未満
7. 1 億円以上

問 4 貴団体・機関の総収入額は平成 20 年（度）と 23 年（度）とを比較しておよそどのような状況にありますか。当てはまる選択肢の番号に 1 つだけ ○をお付けください。（貴団体・機関の会計年度に応じて回答してください。）

1. 0～50%増えた
2. 50～100%増えた
3. 100%以上増えた
4. 変わらない
5. 0～50%減少した
6. 50～100%減少した
7. 活動期間が 3 年未満なので回答できない

問5 貴団体・機関の支援対象者について、もっとも当てはまる選択肢の番号全てに○をお付けください。

1. 一つの市町村又は東京都の特別区内の居住者
2. 一つの都道府県内において、複数の市町村（東京都にあつては複数の特別区を含む）の居住者
3. 近隣の複数の都道府県の居住者
4. 全国の居住者

【貴団体・機関における支援について】

問6

- 1) 貴団体・組織全体としての支援の特徴や強み（例：支援に関する理念や哲学、支援者のサポートや育成の方法、支援組織・体制、連携等の在り方）があればご自由にお書きください。

--

- 2) 貴団体・機関が提供する支援内容として当てはまる選択肢の番号に○を付けてください。（○はいくつでも）

1. 就労支援、職業訓練（マッチング、資格取得対策、労働意欲醸成、職業技能・知識の付与、労働体験、有償就労体験等）
2. 就学支援、学習支援（進学サポート、学習サポート、補習授業等）
3. 生活支援、自立支援（規則正しい生活の回復、生活訓練、対人能力・集団行動能力の習得、対話力向上、社会援助（生活保護等）の取得支援等）
4. 家族支援（家族からの相談対応・カウンセリング、家族向け学習会、親の会の運営等）
5. その他（ ）

- 3) 2) で選んだ支援内容のうち、他の支援団体・機関と比較して、他と違っている、あるいは独自性が高いと思われるもの、あるいは、貴団体・機関において最も成果を挙げている（＝支援件数が増えている、改善率が高い）と思われるものの選択肢番号を 1 つだけご記入ください。

該当する支援： _____

問7（支援の組み合わせ・ステップ）

問6－3) で「該当する支援」と回答した支援（最も成果を挙げていると思われる支援など）について伺います。

- 1) その支援はどのような状態の人を対象としていますか（年代、主訴、心理状態、就労・就学状況、家族関係等）。以下の回答欄に収まる範囲でご自由にお書きください。

(回答欄)

--

- 2) 1) で記入した状態の支援対象者を支援する際の支援方法について伺います。貴団体・機関の支援方法として、あてはまる支援方法を下の支援方法欄から選び、「支援方法」欄に番号を、「支援の特徴」欄に、各支援方法における貴団体・機関の特徴をご自由にお書きください。

(支援方法)

1. 電話・メールでの相談対応 2. 来所による相談への対応 3. 訪問支援
4. 居場所支援 5. 通所支援 (相談以外の活動機会の提供を伴う支援) 6. 宿泊支援
7. その他

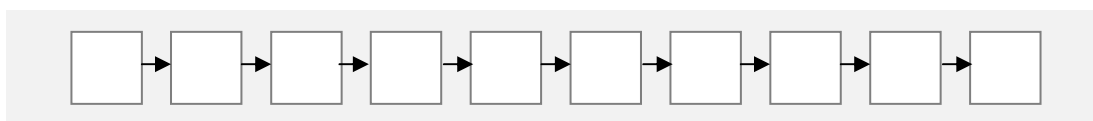
NO	支援方法	支援の特徴 (支援者のタイプ、支援頻度、工夫／他の支援機関・団体との差別化要因)
記載例	3	アウトリーチ支援を行う際に、単に支援機関への誘導という位置づけだけではなく、在宅で支援できることも重視している。特に、訪問を行う支援者は以下の 3 種類を組み合わせで対応していく。 ・被支援者に近い年齢の人が支援するピアサポートでは、当機関の若手スタッフが対応 ・医療面等を詳しく話を聞く専門家サポートでは、当機関の有資格スタッフが対応 ・被支援者の親などに対応する家族サポートでは、当機関のベテランスタッフが対応
①		
②		
③		
④		
⑤		

(必要に応じて、次頁の回答欄もご利用ください)

NO	支援方法	支援の特徴 (支援者のタイプ、支援頻度、工夫／他の支援機関・団体との差別化要因)
⑥		
⑦		
⑧		

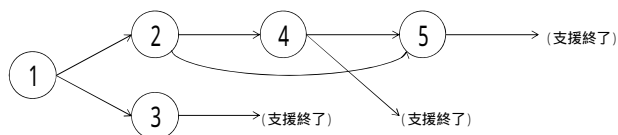
⑨		
⑩		

- 3) 2) で複数の支援方法を記入された方に伺います。それらの支援方法は、時系列的に、あるいは被支援者との関わりの段階によって選択される基本的な流れがある程度決まっていますか。決まっている場合には、提供する支援方法の番号（上記の表の①～⑩に対応させてください）を下記空欄にご記入ください。決まっていない場合は空欄で構いません。



一つの流れで整理できない場合は、下欄に適宜ご記入ください。

(記載例)



【貴団体・機関を継続的に運営していく上で新たに身につけたいノウハウ】

問8) 貴団体・機関を継続的・持続的に運営していく上で、蓄積したい経験、身につけたいノウハウ等について、特に当てはまるものを 3つまでお選びいただき、該当する選択肢の番号に○をお付けください。

(活動資金)

1. 委託事業・補助事業・助成事業（の受託による資金調達）
2. 自主事業（の実施による資金調達）
3. 寄付等（による資金調達）

(外部人材の参画)

4. 一般市民、企業等からのボランティア人材の受け入れ
5. セミナー開催・参加を通じた組織外の多様な人材との接点作り
6. ボランティア・組織外の専門家等の外部人材の参加意欲向上のための機会の提供

(広報・プロモーション)

7. マスメディア等と連携した情報発信
8. ブログ等のソーシャルメディアを活用した情報発信
9. 広報活動を担う人材の採用・育成

(組織構造)

10. 事業環境の変化に対する反応性の向上
11. 施設や機材への拡充のための投資
12. 代表・組織の長以外の役職員への権限移譲

(政策への影響力)

13. 政策決定者・担当者との人的コネクションの構築
14. 政策提言に必要な調査、研究能力
15. 政策となり得る事業の立案・実施能力

問9) 支援において現在連携している、あるいは今後連携したいとお考えの機関・団体について当てはまるものを全てお選びいただき、該当箇所に○をご記入下さい。

	現在連携 出来ている (該当するものに○)	今後連携 したい (該当するものに○)
1. 保健・医療機関		
2. 矯正・更生保護機関（保護監察所、鑑別所等）		
3. 福祉機関（福祉事務所、児童相談所等）		
4. 小学校、中学校		
5. 高校		
6. 大学・大学院		
7. 特別支援学校		
8. その他の学校（ ）		
9. 雇用機関（ハローワーク、サポートステーション等）		
10. 民間企業		
11. 経営者団体（商工会、法人会等）		
12. 地域コミュニティ（自治会、青年会等）		
13. 民生委員・児童委員		
14. その他の機関（ ）		
15. 連携する必要を感じない		

問 10) 貴団体・機関が今後活動をしていく上で、地方自治体・政府に対してご意見等ございましたらご自由にお書きください。

～質問は以上です。御回答ありがとうございました。～

※回答いただいた内容を踏まえて、一部の支援団体・機関に実際に訪問してお話を伺うことをお願いする場合がございます。ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

